

【指導事例2】中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年生徒）



本事例では、自立活動の時間において、どのような指導目標を立て、授業づくりを進めていけばよいのか迷っていました。そこで、学習指導要領解説自立活動編に示されている「流れ図」*1や教育センターの研究物を参考にしながら、対象生徒の実態から考えられる具体的な指導内容を設定しました。

*1：学習指導要領解説自立活動編 P28「流れ図」

対象生徒の実態

- ・診断名：自閉スペクトラム症，注意欠如多動症
- ・自分の言動をコントロールすることや集中を持続させることが難しいため，交流学习の場において皆と同じペースで学習することができないことがある
- ・集団に入ることへの強い緊張感や不安感があり，交流学級において他者と人間関係を築くことが苦手である
- ・これまでの失敗体験から自尊感情が低く，活動が消極的になったり他者との関わりを避けたりすることが多い
- ・他者の会話の内容や周囲の状況を把握することに苦手さがあり，集団の中で適切な行動を選択したり調整したりするなど，状況に応じた行動をとることが難しい
- ・特別支援学級では，困っている友達のことを気に掛けたり，責任感をもって係の仕事成し遂げたりすることができる



○ 対象生徒の実態から設定した自立活動の指導目標

長期の指導目標（1年間の目標）

- ・集団の中で，状況に応じた行動やコミュニケーションをとることができる
- ・自己理解を深め，自分に合った進路について考えることができる

短期の指導目標（後期）

- ・自己理解を深め，自分に合った集団との関わり方を考えることができる



○ 指導目標を達成するための具体的な指導内容

ア 個別指導や小集団活動の中で，話の内容を記憶したり，話の前後関係を把握したりする経験をゲーム感覚で取り入れることで，状況に応じた行動やコミュニケーションをとることができるようにする

【心理的な安定(3)，コミュニケーション(5)】

イ 対人関係に関するソーシャルスキルトレーニング（以下，SST）等に取り組むことで，自己理解を深め，自分を認め，生活する上で必要な支援を求められることができるようにする

【健康の保持(4)，人間関係の形成(3)】

ウ 学校行事に関して，予定されているスケジュールや予想される状況を事前に把握することで見通しをもって活動に取り組み，達成感や成就感を味わうことができるようにする

【心理的な安定(3)，人間関係の形成(4)】

(7)指導内容と学習の場面を
決める

(ア) 指導内容と学習の場面を決める

選んだ具体的な指導内容

イ 対人関係に関するSST等に取り組むことで、自己理解を深め、自分を認め、生活する上で必要な支援を求めることができるようにする

【健康の保持(4)、人間関係の形成(3)】



今回の授業では、具体的な指導内容としてイを選びました。
対象生徒は中学3年生であり、これから進路選択や入試に向けての面接指導等が本格的に始まります。卒業後の学校生活を考えても、自己理解を深めておくことは大切だと考えました。また、短期の指導目標を「自己理解を深め、自分に合った集団との関わり方を考えることができる」と設定していたことから、イを選択することにしました。

step1 選んだ具体的な指導内容を「(生徒が) ~できる」で区切って分ける

「~できる」で区切って分ける

対人関係に関するSST等に取り組むことで、 / 自己理解を深め、 / 自分を認め、 / 生活する上で必要な支援を求めることができるようにする



「『~できる』で分けた指導内容」

- ・自己理解を深めることができる
- ・自分を認めることができる
- ・生活する上で必要な支援を求めることができる



具体的な指導内容の文章を「~できる」で区切って分けることで、指導内容を整理することができました。

step2 「『~できる』で分けた指導内容」を、どの学習の場面で指導するのかを決める

「『~できる』で分けた指導内容」	学習の場面
自己理解を深めることができる 【人間関係の形成(3)】 今回取り上げた「『~できる』で分けた指導内容」と学習の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級 (自立活動の時間) ・特別支援学級 (学習や生活の場面) ・交流学級 (学習や生活の場面)
自分を認めることができる 【人間関係の形成(3)】	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級 (自立活動の時間)
生活する上で必要な支援を求めることができる 【健康の保持(4)、人間関係の形成(3)】	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級 (自立活動の時間) ・交流学級 (学習や生活の場面)



この3つの「『~できる』で分けた指導内容」は、いずれも自立活動の時間に取り扱うこととし、今回の授業では、「自己理解を深めることができる」を取り扱うこととしました。自己理解→自己受容→SST→般化という順序性があると考えて、自己理解を深める段階を指導内容として選びました。

(7)指導内容と学習の場面を
決める

(イ)授業内容を
考える

(イ) 授業内容(学習内容, 題材と目標等)を考える

step1

『『～できる』で分けた指導内容』について, どのような学習内容が考えられるか, 対象生徒の実態から考え, 授業で取り扱う学習内容を選ぶ

『『～できる』で分けた指導内容』

「自己理解を深めることができる」

課題分析

どのような力を身に
付けることが必要か
考えます

学習内容

- ・ 自己評価をする
- ・ 他者からの評価を知る
- ・ 自分が思っている自分と他者が思っている自分を比較する



対象生徒は, 自尊感情が低く, 活動に消極的になったり, 人との関わりを避けたりすることがあります。しかし, できていることも多くあるため, そのことに気付いてほしいと考えて他者からの評価を取り入れました。自己評価と他者評価とを比較しながら客観的に自分を見つめ, 自分の長所や課題を整理することで, 自己理解を深めることができると考え, 上記の学習内容を取り扱うことにしました。

他にも次のような学習内容が考えられます

案1

- ・ 自分の長所を知る
- ・ 自分の課題を知る
- ・ 課題を解決するための取組を考える

案2

- ・ 場面ごとに自分が自信をもつことができることを考える
- ・ 自分が自信をもつことができそうなことは何かを考える
- ・ 自信をもつための具体的な取組を考える

step2

選んだ学習内容について、題材と目標等を考える

学習内容

- ・自己評価をする
- ・他者からの評価を知る
- ・自分が思っている自分と他者が思っている自分を比較する

対象生徒の実態は？（生徒観）

自尊感情が低く、集団の中で人と関わることに大きな不安や緊張を抱えていて、自分がもっている力を発揮できずにいるなあ。

どのような題材にする？（題材観）

卒業までに、自分の長所や課題を知り、自己理解を深め、また、必要な支援を周囲の人に伝えることができるようになるような学習を取り扱う必要があるなあ。

どのように指導する？（指導観）

個別学習の形態で行うことで、対象生徒がじっくりと日常生活を振り返ることができるようにしたり、「自己理解チェックリスト」を用いて自分で確認できるようにしたりするなど工夫を凝らすといいよね。



○ 題材名

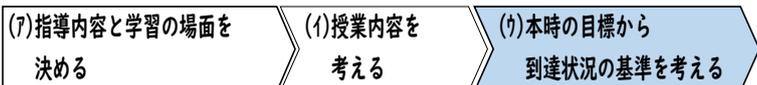
「自分のことについて理解を深めよう」

○ 題材の目標

自分のできていることや今後の進路に向けてチャレンジしたいことについて整理し、自己理解を深める

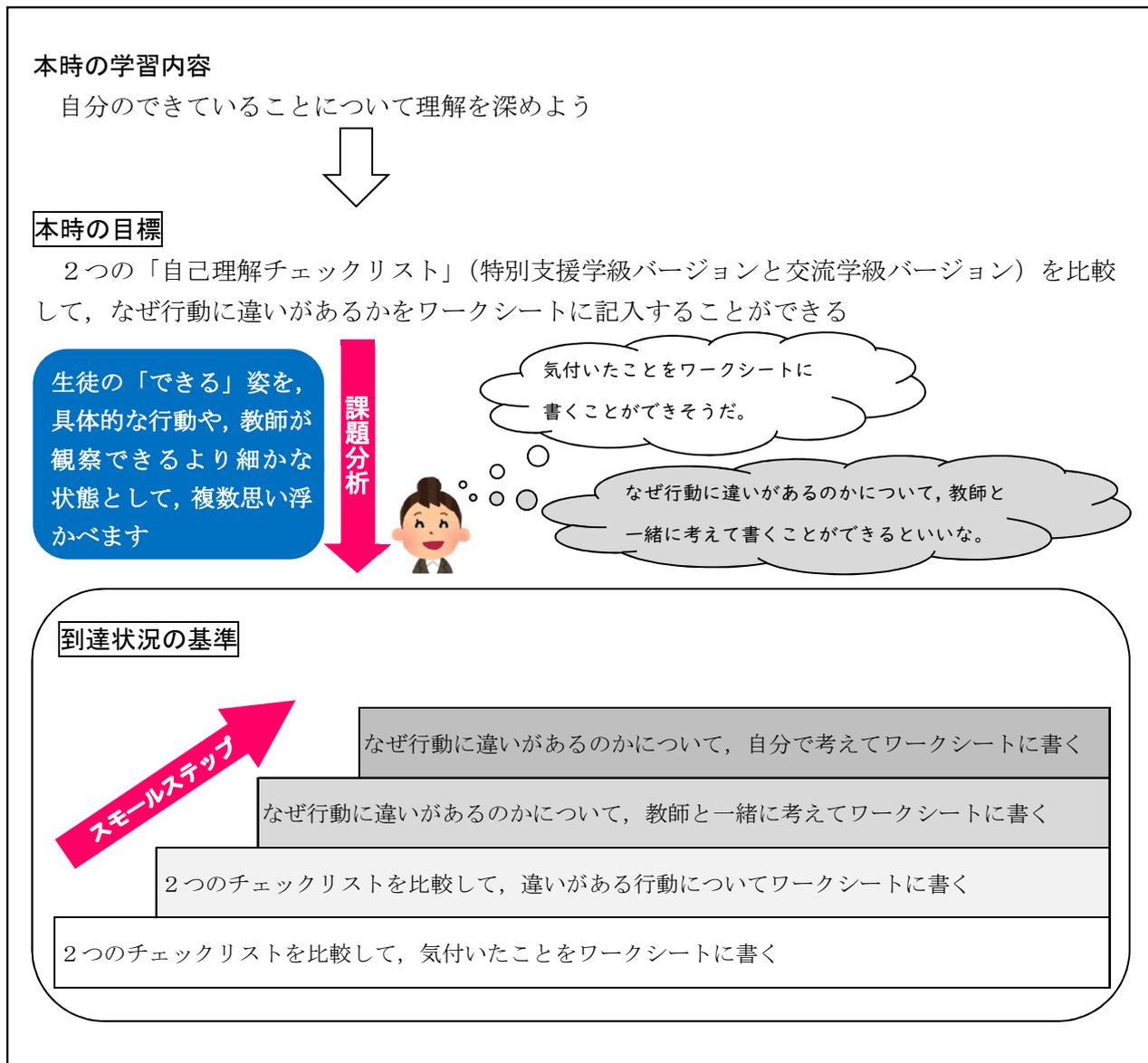
○ 指導計画（全3時間）

- ・自分のできていることについて理解を深めよう・・・本時
- ・「自己理解チェックリスト」で自分がチェックしたものと他者から自分のことについてチェックしてもらったものを比較して自己理解を深めよう
- ・自分の今後の課題について具体的に考えよう

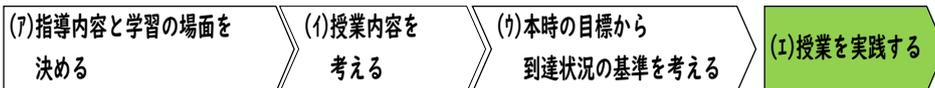


(ウ) 本時の目標から到達状況の基準を考える

- 本時の目標から、対象生徒の「できる」姿を複数思い浮かべ、対象生徒の実態に近い「できる」姿から段階的に積み上げる



本時の目標から、課題分析とスモールステップを参考にして、対象生徒の「できる」姿を複数考え、到達状況の基準としました。



(エ) 授業を実践する

○ 本時の目標

2つの「自己理解チェックリスト」(特別支援学級バージョンと交流学級バージョン)を比較して、なぜ行動に違いがあるかをワークシートに記入することができる

○ 本時の展開 (1/3)

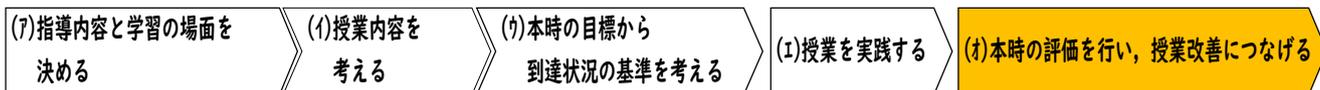
◎到達状況の基準から評価する

学習活動	教師の支援	評価・備考
1 本時の目標を知り、学習に見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標、学習の流れをホワイトボードに示し学習に見通しをもたせる 	ホワイトボード
2 「自己理解チェックリスト」にチェックする	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の実態に合わせたチェックリストを2部用意し、特別支援学級と交流学級それぞれの場面を考えながらチェックさせる ・3件法にし、答えやすいようにする(あてはまる/少しあてはまる/あてはまらない) ・本人から質問がある場合は、どのように思うか聴き、本人の思いを大切に受け止めながらチェックリストに記入させる ・補足があれば、教師がメモを書いてシートに貼る ・チェックができたことを賞賛する 	「自己理解チェックリスト」(特別支援学級バージョンと交流学級バージョン) 付箋
3 できていることについて理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・できていることに着目させるために、「あてはまる」「少しあてはまる」までが見えるように、チェックリストを折らせる ・2つのチェックリストの比較がしやすいように○がある項目にマーカーで印を入れさせる ・日頃の生活と結び付けながら本人にフィードバックすることで、できている自分を意識できるようにする ・特別支援学級と交流学級それぞれでのチェックの違いに注目させ、気付いたことをワークシートに記入させる ・環境によって、できていることに違いがある理由についてワークシートに記入させる 	蛍光ペン ◎評価 ワークシート ◎評価
4 本時の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の気づきや感想をワークシートに記入させる ・教師の感想や今後の見通しについて話をする 	

📄 本時の学習指導案へ

📄 自己理解チェックリストへ

📄 ワークシートへ



(オ) 本時の評価を行い、授業改善につなげる

step1 到達状況の基準から、本時の目標に対する評価を行う

評価の基となる対象生徒の様子	到達状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級、交流学級それぞれでの自分の姿を思い浮かべながらそれぞれでの「自己理解チェックリスト」にチェックを入れ、環境が違うことで居心地の良さや安心感が違うことに気付き、教師に話すことができていた ・ 話したことを文章で表現することが難しい様子だったが、教師と話をしていくことで、記入することができていた ・ 教師が予想していた以上に、自分の気持ちやこれまでの行動について話をした。授業後に「話すことができてよかったです」という感想を教師に伝えることができた 	<p>なぜ行動に違いがあるのかについて、教師と一緒に考えてワークシートに書く</p>

step2 評価を基に授業を振り返り、本研究における6つの授業改善の視点に沿ってチェックし、改善の内容・方法を具体的に考える

チェック	授業改善の視点	改善の内容・方法
	目標の設定	
✓	学習内容の設定	・ 自分のことについて話す時間を設けることで、自分の考えを整理しやすくする
	活動の場	
	教材・教具	
✓	教師の関わり	・ 話をする際に、本人が伝えたいことを確認し合いながら聴いたり話を分かりやすくまとめたりする
	その他	

step3 前時の改善点を取り入れ、次時の授業を実践する

○ 次時の目標

自分がチェックしたもの（自己チェック）と他者（教師）から自分のことについてチェックしてもらったもの（他者チェック）を比較し、他者から見た自分について整理することで理解を深めることができる

○ 次時の展開（2／3）

学習活動	教師の支援（太字は改善の内容・方法）	授業改善の視点
1 本時の目標を知り、学習に見通しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標、学習の流れをホワイトボードに示し学習に見通しをもたせる ・今後の進路学習や卒業後の生活を踏まえ、自己理解を深めることの大切さについて説明する 	
2 前時の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に取り扱った「自己理解チェックリスト」を用いて、内容を確認する ・自分の長所や今後チャレンジしたいことについて確認する 	
3 教師が「自己理解チェックリスト」から選んだ項目について、更に細かく考える	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が示した内容について5件法でチェックする（自己チェック） （その通り／かなりあてはまる／まあそうだ／あまりあてはまらない／まったく違う） 	
4 自己チェックについて選んだ理由をワークシートに書く	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ理由について、これまでの経験と結び付けて話をするように言葉掛けをする。理由を説明させた後にワークシートに書かせる ・本人が伝えたいことを確認したり、整理したりしながら受容的な態度で聴く 	←学習内容の設定 ←教師の関わり
5 他者チェックを見て意見を交換する	<ul style="list-style-type: none"> ・教師からの他者チェックを見せながらその理由について伝え、意見を交換する 	
6 それぞれの項目について意見交換をした感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が自己の気付きについて話をする時間を十分にとった後にワークシートに書かせる ・本人の感想に対して、本人が伝えたいことを確認したり、整理したりしながら受容的な態度で聴く 	←学習内容の設定 ←教師の関わり
7 本時の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の気付きや感想を述べた後にワークシートに記入させる ・学習後の教師の感想や今後の進路学習について話をする 	



授業後の対象生徒の姿

- ・教師と一緒に話しながら取り組むことにより、自分の考えを整理し、ワークシートにまとめることができました。
- ・ワークシートの振り返りには、「話すことができてよかったです」「ありがとうございます」などの記述があり、充足感を得ている様子でした。

まとめ

○ 成果

- ・「授業づくりナビ」に課題分析やスモールステップを用いた例が図示してあり、実際の授業づくりで学習内容を考えたり、到達状況の基準を考えたりする際に、イメージしやすく参考になりました。
- ・選んだ具体的な指導内容を「～できる」で区切って分けたことにより、指導内容を明確に捉えることができました。
- ・学習内容を考える際に、課題分析を参考にして、対象生徒がどのような力を身に付けることが必要であるかということについて細かな具体的行動に分けて考えることにより、実際に授業づくりを進める上でのイメージがもちやすくなりました。
- ・課題分析とスモールステップを参考にして到達状況の基準を考えたことにより、実際の授業で、対象生徒の「できる」姿を見取る場面が増えることにつながりました。
- ・到達状況の基準を考える際は、課題分析を参考にして、他の特別支援教育担当職員とも話し合っただけでなく他の職員とも一緒に考えることで、様々なアイデアが思い浮かび、支援の幅が広がりました。
- ・授業を通して、教師がじっくりと話を聴くことで、本人の安心感につながり、自己理解を深めることにもつながったと感じました。
- ・授業前に到達状況の基準を設定しておくことが、適切な評価と次時への目標設定につながるということを実感しました。

○ 課題

- ・特別支援学級に在籍する生徒に対して行う目標設定においては、まず、生徒の実態把握として学習上又は生活上の困難さがどこに起因するものなのか、背景要因をじっくり捉えておくことが重要だと感じました。背景要因を捉えることに慣れていなかったため、課題分析を参考にして目標を具体的に設定することに難しさを感じました。目標を具体的に設定する際も、到達状況の基準を考える際も、特別支援教育において経験のある職員に相談するなど複数で考えていくと、負担や不安が軽減するのではないかと感じました。